

(5) 研究の考察

考察の視点

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の改善及び必要な方策等について（答申）」では、観点別評価については、「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理することとされています。「学びに向かう力、人間性等」に示された資質・能力については、評価になじむものではないことから、評価の観点としては学校教育法に示された「主体的に学習に取り組む態度」として設定されています。新学習指導要領では、まだ、評価について具体的に示されていませんが、本研究委員会では、現行の学習指導要領の評価の考え方と新学習指導要領の評価の考え方は基本的には同じだと考え、以下のように捉えました。

現行学習指導要領	新学習指導要領
社会的事象への関心・意欲・態度	主体的に学習に取り組む態度
社会的な思考・判断・表現	思考力、判断力、表現力等
資料活用の技能	知識及び技能
社会的事象についての知識・理解	

本研究委員会では、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業の質的改善を図りました。意識調査から生徒の実態を把握して【「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業づくりのチェックリスト】で教師自身の指導の実態を振り返り、【「主体的・対話的で深い学び」の視点からの教師の手立て表】を照らし合わせて、6月から11月にかけて授業実践に取り組んできました。そこで、次の視点について、6月から11月の授業実践を考察します。

・教師の手立てが、生徒の資質・能力の育成につながっていたか。

ここでは、A校とB校の6月～11月のそれぞれの授業実践を通して、教師の手立てが「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力の育成につながったかどうかを、A校の抽出児AとB校の抽出児Bのワークシートの記述の変容を追って考察していきました。

ア A校 1学年の実践の考察

6、7月の第1学年『世界各地の人々の生活と環境』の授業実践では、意識調査の結果で分析した生徒の実態を踏まえて【「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業づくりのチェックリスト】で教師自身の指導の実態を振り返り、【「主体的・対話的で深い学び」の視点からの教師の手立て表】と照らし合わせながら手立てを取り入れました。

単元の始めに、「なぜ、気候帯によって世界の人々の生活が異なるのか」という単元を貫く学習課題を設定しました。電子黒板を活用して前時の授業を振り返り、資料を提示して問い返しをしながら単元を貫く学習課題を設定した後、ワークシートを活用して見通しを持たせたのでゴールをイメージさせることができました。

1単位時間のそれぞれの導入で、ワークシートの白地図に学習する地域を塗りつぶさせ、その地域の雨温図を示すことで関心を持って、授業に取り組むことができ、授業に組み込むことができました。グループ活動では、個人で調べたことを意見交換しながら、グループで出た意見を（資料1の枠囲みの部分）を付け加えることができ、より多くの情報を収集することができたと考えます。

○教科書の写真や文からインドネシアの生活を読み取ろう。

気候 自然	<ul style="list-style-type: none"> ・熱帯 一日の天気が変わりやすい。 ・スコール 一年中昼間の気温が30℃近く。 ・熱帯雨林が広がっている。
衣服	<ul style="list-style-type: none"> ・気候に合った風通しのよい素材を使っている。 ・汗をすいやすい
住居	<ul style="list-style-type: none"> ・高床式の家 ・熱帯雨林を柱やかへんに使う。
食事	<ul style="list-style-type: none"> ・手づかみ(右手を使っている) ・野菜、魚 ・イスラム教では、左手を食事に使わない ・米

資料1 抽出生徒Aの第2時のワークシートの記述

また、授業の最後に個人で考える時間を設定し、代表者を全体で発表させたことにより、資料2の枠囲みの部分を付け加えることができ、理解を深めるこ

※インドネシアの人々の生活は外国との関わりによって変化している。問題点を説明しよう。

観光地の開発で熱帯雨林が減少している。
<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ問題 →生活している人がこまる。 動植物の減少。 温暖化が進む。

資料2 抽出生徒Aの第2時のワークシートの記述

とにつながったと推察できます。

この単元を学習させた後に、6、7月の実践の成果と課題を振り返って、生徒の実態を踏まえながら【「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業づくりのチェックリスト】で教師自身の授業を振り返り、9月の実践に生かしていきました。

◎東南アジアの工業はどのように発展したか説明し、その発展にともなう課題について答えなさい。
条件 ⑤⑥の資料について触れること
説明補助語句 (工業団地 労働賃金 外国企業 格差)

<p>東南アジアの国々は工業団地を整備し、安い労働賃金を生かし、外国企業を受け入れ発展した。しかし、工業化による経済発展で都市部を中心に発展したが、農村部では人々の収入が増え、都市部と農村部で格差が生まれている。</p>	<p>東南アジア</p> <ul style="list-style-type: none"> 工業団地 工業団地 <p>労働賃金の安さ 土地の安さ 資源の豊富さ</p> <p>外国企業</p>
--	---

資料3 抽出生徒Aの第3時のワークシートの記述

9月の第1学年『アジア州』の授業実践では、単元の始めに、「なぜ近年アジアの経済に急激な成

長が見られるのか」という単元を貫く学習課題を設定しました。電子黒板を活用し、アジア州に属する日本の例を挙げながら問い返しをし、単元を貫く学習課題を設定したことで、切実感を持って学習課題に取り組ませることができたと考えます。前頁資料3のように、説明補助語句をキーワードとして示すことで、それらの語句を使って複数の資料を関連させて説明することができ、代表者を全体で発表させ教師が補足説明したことで、重要だと思ったこと（枠囲み部分）を付け加えることができ、理解を深めることにつながったと推察できます。このことから、前単元からの手立てを継続しながら、更に身近な例を挙げて切実感を持たせたことで、資料3のように記述することができており、文章表現の力が身に付いてきていると考えます。この単元を学習させた後に、9月の実践の成果と課題を振り返って、生徒の実態を踏まえながら【「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業づくりのチェックリスト】で教師自身の授業を振り返り、10、11月の実践に生かしていきました。

11月の第1学年『ヨーロッパ州』の単元では、イギリスがEUから離脱したニュースを取り上げて、問い返しをしながら日本への影響を考えさせることで切実感を持たせ、「EUに拡大と離脱の動きが見られるのか」という単元を貫く学習課題を設定しました。検証授業では、学習課題に対しての関心を高めるために、授業の始めにイギリスのEU離脱問題に関する新聞記事を電子黒板で提示し、資料4のような予想を個人で考えさせました。生徒は、既習事項を振り返りながら、自分なりの根拠（資料4の枠囲み部分）を記述することができました。このことから、本時の授業の見通しを自ら立てることができたと推察できます。

なぜイギリスは国民投票でEU離脱賛成が多数だったのだろうか。
 予想 ・ イギリスに多くの移民が来たから。

資料4 抽出生徒Aの第6時のワークシートの記述

個人で考える時間を設定し、争点を絞った資料とワークシートに合わせた書き方を示すことで、自分の考え（資料5の枠囲み部分）を、その根拠（資料5の下線部）を示して記述することができました。クラスの約8割の生徒が離脱の考えをワークシートに記述していましたが、教師が「もし、日本という立場で考えたらどうですか」という発問をしたときに、ほとんどの生徒が「日本という国の立場だったら残留の方がよい」として、考えを変えて残留に挙手していました。このことから、前単元からの手立てを継続しながら、新聞記事や身近な例を挙げて切実感を持たせたことで、多面的・多角的に考察する力が身に付いてきていると推察できます。

私はイギリスのEU離脱について離脱派です。その理由はイギリスはEUに加盟していることによって、大量の移民が来て失業が増えたり、住宅不足がおこるからです。また、EUを離脱することによってEU法を守る必要がなくなり、国の自由な意思決定が可能になるということもあります。経済面ではEUへの負担額がなくなるということもあります。それにEU域内でパスポートなしで行き来できることによってテロリストが入ってくるかもしれないからです。私はそのことによってイギリスの人の生活に支障が出ると思います。だから私は離脱派にしました。

資料5 抽出生徒Aの第6時のワークシートの記述

ワークシートに記述していましたが、教師が「もし、日本という立場で考えたらどうですか」という発問をしたときに、ほとんどの生徒が「日本という国の立場だったら残留の方がよい」として、考えを変えて残留に挙手していました。このことから、前単元からの手立てを継続しながら、新聞記事や身近な例を挙げて切実感を持たせたことで、多面的・多角的に考察する力が身に付いてきていると推察できます。

以上のことから、6月から11月にかけての教師の手立てが、生徒の実態に応じて「主体的・対話的で深い学び」の視点からそれぞれの単元を通して図られており、それらの手立てが「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力の育成につながったと考えます。

イ B校3学年の実践の考察

7月の第3学年『私たちの生活と文化について考えよう』の授業実践では、意識調査の結果で分析した生徒の実態を踏まえて【「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業づくりのチェックリスト】で教師自身の指導の実態を振り返り、【「主体的・対話的で深い学び」の視点からの教師の手立て表】と照らし合わせながら手立てを取り入れました。

単元の始めに、「文化」という言葉から連想できるものを自由に発言させたり、ニュースや身近な例を挙げたりして「あなたが世界に広めたい日本の文化とは？」という単元を貫く学習課題を設定したことで、学習課題に向けての見通しを持たせることができました。ワークシートにキーワードを示したことで、そのキーワード

(資料6の枠囲み部分)を選択し、単元を通して習得した知識やグループ活動での意見交換を参考にしながら、自分なりの考えを(資料6の下線部分)記述することができました。また、学習したことを自分たちの生活につなげて考えさせるために、ワークシートに身近な大人の考え(資料7)

私が世界に広めたい日本の文化は、(食文化に関する文化)です。
 なぜなら、今は、ファストフードや、インスタントといった手軽に
 食べられる食べ物があります。そういった中で、煮物
 などといった和食を作れない人がいるので、和
 食の文化を日本人が改めて学ぶ、外国人にも
 作ってもらいたいから。

資料6 抽出生徒Bの第4時のワークシートの記述

を記述してもらった欄を設けたことで理解を深めることができたと考えます。

このことから、資料やグループ活動を通して得た情報を選択して自分の考えを表現する力が身に付いてきており、身近な大人の考えを知ることで深い学びにつながっていると推察できます。

(お母さん)に聞いた。
 世界に広めたい日本の文化は、(昔の遊び)です。
 理由:携帯やiPadやPCなどのゲーム機や身体と動かないことが多い。
 子供は特に学校の時に出る暇な遊びをせよしてほしい。

資料7 抽出生徒Bの第4時のワークシートの記述

この単元を学習させた後に、7月の実践の成果と課題を振り返って、生徒の実態を踏まえながら【「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業づくりのチェックリスト】で教師自身の授業を振り返り、9月の実践に生かしていきました。

私は論題に対し (A維持 ・ **B改憲**) した方がよいと考えます。その理由は、

2>あります。1>目は、今の社会には自衛隊がいるけど、憲法には、自衛隊のことは

書かれていないからおかしいからです。2>目は、もし北朝鮮からミサイルを落と

されても日本は、なにもできなくなるからです。さらに資料8では、「たが

何もせず持、ているだけでは、平和は維持できませんとあります。

このまま、第9条を維持した場合、自衛隊が憲法違反におどえなが
う活動することになります。それより、憲法を改憲して、自衛隊が活
動しやすいようにしてあげるべきだと思いました。そして、平和を維持で
きると考えました。なので、第9条を改憲した方がよいと考えました。

資料8 抽出生徒Bの第4時のワークシートの記述

私は論題に対し (**A維持** ・ B改憲) した方がよいと考えます。その理由は、

もし憲法9条を改憲したら、日本が戦争に巻き込まれる可能性があるからです。日本はアメリカ

と日米同盟を結んでいます。アメリカが戦争を起すと日本も攻撃されたり、攻撃したりしなけれ

ばなりません。そうしても、日本人は、そんなバの準備ができないと思います。憲法9条

があると、日本からの攻撃ができず、国民の命が守れないという意見もあると思います。

しかし、憲法9条が改憲され、日本からの攻撃ができるようになり、一度でも日本から攻撃した

場合、それと同時に日本の平和は、長い間戻ってこないと思います。なにより、多くの日本

国民が日本からの攻撃はのぞんでないと思います。また、改憲されて、日本の自衛隊が戦

争に参加するとなると、自衛隊をやめたり、入る人がいなくなることも考えられます。

そして、60年間、日本が守ってきた平和の「イモシ」を守っていく必要があると思います。平和

であることにより、外国と信頼関係をきずけているということもあると思います。

資料9 抽出生徒Cの第4時のワークシートの記述

9月の第3学年『日本国憲法について考えよう』の授業実践では、単元の始めに、日々のニュースを騒がせている北朝鮮のミサイル発射問題を取り上げて、問い返しをしながら「今後、日本は憲法第9条をどうすべきか 維持か改憲か」という単元を貫く学習課題を設定しました。家庭や日常生活の中でも話題になっていた時事問題だったので、より切実感を持って学習課題に取り組むことができていました。学習課題について、個人で考える場を設定し、その後、「維持」と「改憲」のグループに分けて話し合わせ、「維持」と「改憲」の意見をそれぞれまとめさせました。全体で、それぞれの代表者に発表させ、再び個人で考える場を設定して、学習したことを基に自分の考えとその理由を記述させました。資料を読み取らせて習得させた知識を活用させながら、自分とは異なる考えと比較、関連させた結果、**抽出生徒B**は「改憲」の考え（前頁資料8の枠囲み部分）とその理由（資料8の下線部分）を、**抽出生徒C**は「維持」の考え（前頁資料9の枠囲み部分）とその理由（資料9の下線部分）をそれぞれ表現できていました。継続して、ワークシートに身近な大人の考えを記述してもらい欄を設けているので家庭での話題にもなり、様々な考えを聞くことで考えを広げ深めることができていると考えます。

この単元を学習させた後に、9月の実践の成果と課題を振り返って、生徒の実態を踏まえながら【「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業づくりのチェックリスト】で教師自身の授業を振り返り、10、11月の実践に生かしていきました。

私が考える単元を貫く問いに対する解決の手立ては、

職場や学校などに投票の場をつくるです。投票率低下の原因は、
 時間がないという声がありました。なので、**職場につくれば**、いそがしくて行
 けないということはないし、**学校につくれば** 確実に若者の投票率が上がる
 と考えました。この手立てを行うことによる長所は、**時間短縮、忘れ**
るという可能性が低い、若者の投票率がポイントで上がるです。短所は、
場所をとってしまうことですが、**長所が若者の投票率アップにつながる**
ので、職場や学校などに投票場をつくるのがいいと思います。

資料10 抽出生徒Bの第7時のワークシートの記述

11月の第3学年『国民として国の政治を考えよう』の単元では、単元を再構成してパブリック・ディベートを取り入れました。単元の始めに、電黒板やワークシートで、日本と外国を比較した選挙に関する複数の資料を提示し、日本の選挙権が満20歳以上から18歳以上に引き下げられたことにも触れ、問い返しをしながら切実感を持たせ、「若者の投票率を上げるための手立てを考えよう」という単元を貫く学習課題を設定しました。その際、単元計画と評価規準を示したことで、学習課題に対しての見通しを持たせることができました。検証授業では、若者の投票率を上げるための手立てをグループごとに発表させ、質疑応答で得られた意見を基にグループで再考させて、代表者に全体で発表させました。その後、どのグループの手立てがよいかを1つ選ばせて投票させました。そして、個人で考える場を設定して、自分が選択した手立てとその根拠を記述させました。**抽出生徒B**は、授業を振り返りながら選択した手立て（資料10の枠囲み部分）と、長所と短所の両面から

考えて選択した手立
 ての根拠（前頁資料
 10 の下線部分）を記
 述することができま
 した。継続して、ワー

【ご家庭や知人の方々からのご感想・ご意見】○生徒との続柄（ 母 ）※長文になる場合は、裏面へ

本人が思っている功に今回の授業の際に話し、それが職場に投票場があったら……と
 ……話し合っただけ

資料 11 抽出生徒Bの第7時のワークシートの記述

クシートに身近な大人の考えを記述してもらった欄（資料 11）を設けたことで、家庭で政治の話題を
 する生徒も増え、社会科学習への関心を高めることができました。

以上のことから、7月から 11 月にかけての教師の手立てが、生徒の実態に応じて「主体的・対話
 的で深い学び」の視点からそれぞれの単元を通して図られており、それらの手立てが「思考力、判
 断力、表現力等」の資質・能力の育成につながったと考えます。